

みやぎ米は 自然にも、やさしい。



「環境保全米」は、
このマークが目印です。

安全・安心なお米「みやぎの環境保全米」とは

みやぎの豊かな水と土を美しく保ちながら、自然豊かな環境を守るために、農業や化学肥料の使用量を半分以下に減らし、自然と人間の力をあわせておいしいお米作りを行う。それが私たちの取り組み「みやぎの環境保全米」です。

とき汁を出さない無洗米もSDGsに貢献しているよ!



© みんなのよい食プロジェクト

環境保全米のメリット

- 水や土を守り、生き物を守ることができる。**
農業や化学肥料の使用量を減らすことで、栽培している地域の環境(水・土など)への負荷を軽減させ、きれいで豊かな生態系の維持に貢献します。
- 安心・安全なお米をお届けできる。**
農業や化学肥料の使用量を減らすことは、全国の消費者に、より安全で安心なお米をお届けすることにもつながります。
- 安定した食糧供給に貢献できる。**
健康に育った稲は生命力豊か。しっかり根を張り、冷害などにも負けない米作りを目指すことで、毎年安定した良質なお米をお届けすることができます。

うまくて、 おいしい。 みやぎ米

ササニシキは、
愛されて60年。



「みやぎ米」メッセンジャー キャンディックマン

ひとめぼれ ササニシキ だて正夢 つや姫
宮城を代表する主力銘柄 和食との相性抜群 もちもち食感の新銘柄 艶があって粒ぞろい

新米 キャンペーン 60周年の感謝をこめて

- (A) ×50名様** 仙台牛(500g) + 加工品セット (1万円相当)
- (B) ×100名様** 宮城県産 ササニシキ使用の押し寿司(冷蔵) (5千円相当)
- Wチキニキ** ササニシキバックごはん 200g **200円**

宮城県 及び キャンペーンについて詳しくは
<https://www.m-hozenmai.jp/> うまさにはちず みやぎ米 検索



仙台市「まりさん」こと
長門 真理子さん

ネモフィラとサクラの共演

七北田公園…(仙台市泉区) (2023年4月撮影)

ネモフィラの青とサクラのピンクが映えて、小さなお花もかわいらしくとてもきれいでした。七北田公園は私のお散歩コースで、いつも癒やされています。花やみどりの魅力は、元気な時も気持ち沈んだ時もパワーをもらえるところ。いつもきれいに手入れされている七北田公園を皆さんにもぜひ楽しんでほしいと思います。



長老湖…(七ヶ宿町)
残雪の不老山、その麓に水をたたえる長老湖。鮮やかな新緑と輝けるような桜が強く印象に残りました。(2023年5月撮影) by: あきらさん



矢本地区の水田…(東松島市)
黄金色に色づいた田園で農作業車とブルーインパルスが映る。東松島市らしい風景が好きです。(2023年8月撮影) by: ちかぼんさん



昭和万葉の森…(大衡村)
森の中に入るとたくさんのヤマユリが咲いていて、とてもきれいで癒やされました。(2023年7月撮影) by: チョッパー-王国さん



西根たんぼアート…(角田市)
羽生結弦さんと伊達政宗公の騎馬像がテーマで、色鮮やかに描かれた自然のアートです。(2023年9月撮影) by: CHIYOKOさん



みちのくの湖畔公園…(川崎町)
空の青、桜の緑、チューリップとシバサクラがとても美しい。(2023年4月撮影) by: マルさん



湯沼…(大崎市)
新緑が溜いっばいに映り込んで、山も沼もグリーンの世界です。(2023年4月撮影) by: 香香さん



伊豆沼・内沼はすまじり若柳会場…(栗原市)
昨年の水香を乗り越え、美しく咲いたハスに感動しました。(2023年8月撮影) by: なおとさん



やくらいガーデン…(加美町)
みなさんがあまり撮らない画角です。(2023年9月撮影) by: K.Suzukiさん



資福寺…(仙台市青葉区)
あじさい寺の名で有名な資福寺。心落ち着けるところです。(2023年7月撮影) by: 豆次郎さん



気仙沼湾と市街地…(気仙沼市)
震災から復興した気仙沼市を、安産山から眺めてみました。(2023年10月撮影) by: お翔さん



材木岩公園…(白石市)
材木岩公園に泳ぐ鯉のぼり。いつまでも見たいものです。(2023年5月撮影) by: きーたんさん



北部の田園地帯…(角田市)
5月になると、田植えが済んだ田んぼに蔵王連峰が映る。初夏の風景が広がります。(2023年5月撮影) by: 自由人さん



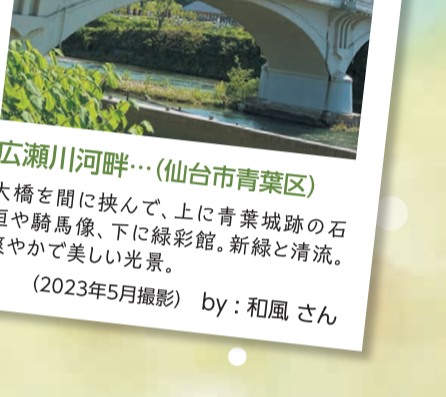
薬菜山と田園…(加美町)
船形山と薬菜山の首を、ハクチョウたちはエサを求め飛んで行きました。(2023年1月撮影) by: やくらいっさん



徳仙丈山…(気仙沼市)
新緑と真っ赤なツツジがきれいでした。(2023年5月撮影) by: A.コウさん



七日原…(蔵王町)
1月の雨、みどり霧の共演です。(2023年1月撮影) by: 八木山のおやじバンドさん



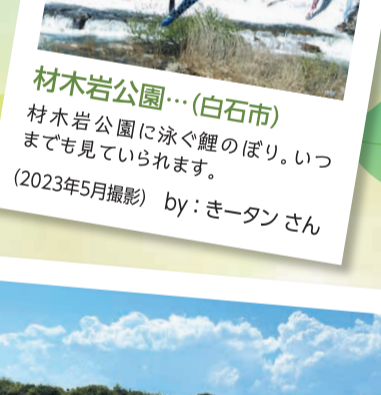
広瀬川河畔…(仙台市青葉区)
大橋を前に撮って、上に青葉城跡の石垣や騎馬像、下に緑彩館、新緑と清流。真やかで美しい風景。(2023年5月撮影) by: 和風さん



釜房湖…(川崎町)
釜房湖の四季(冬)(2022年2月撮影) by: Volk1213さん



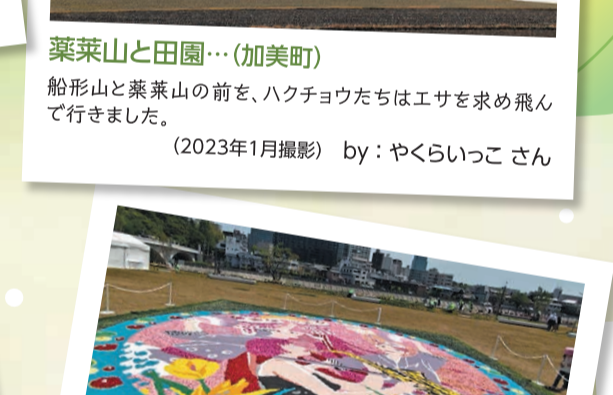
ざおうハーブ カモミール畑…(蔵王町)
広大なカモミール畑と、ヤマナラシの木のうに作られたツリーハウス。ここからの眺めは絶景のスポットです。(2023年5月撮影) by: 蔵王のなりちゃんさん



千年希望の丘…(岩沼市)
真夏のおまわり!(2023年8月撮影) by: teruさん



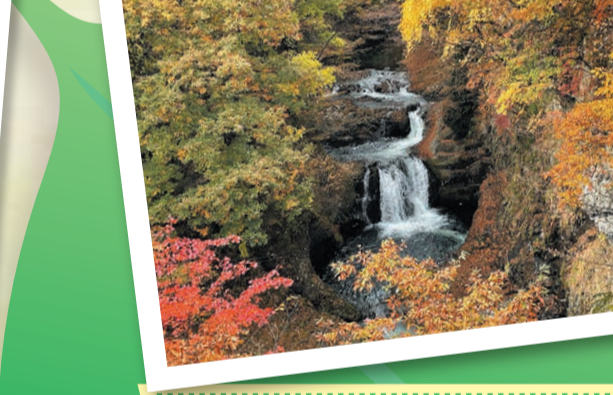
名取川熊野堂側…(名取市)
ワンちゃんの散歩中、滑走路を思わせるような空!(2023年8月撮影) by: みつばすーさん



青葉山公園追道地区…(仙台市青葉区)
約20,000本のカーネーションを使って、市民のご協力により作成されたたのこと、人と人が輝く仙台フラワーカーペット。見事でした。(2023年5月撮影) by: 猛猫日さん



仙台滝山村寒湯番所跡…(栗原市)
5月の時期は緑がたくさんあって気持ちいいです。(2023年5月撮影) by: スマイルさん



秋保大滝…(仙台市太白区)
雪の秋保大滝、なんて荘厳な景色なんだろう。(2023年1月撮影) by: おとださん



仙台市「たまちゃん」こと
原 環(たまき)さん

まるで絵はがきのような紅葉

風鳴四十八滝…(仙台市青葉区) (2022年11月撮影)

もともと滝や清流、渓谷が好きで、週末にはいろいろなところに出かけています。ここは初めて訪れましたが、滝と周りを囲む紅葉がまるで絵はがきのように、一目で気に入りました。皆さんにもぜひ見ていただきたいですね。仙台はちょっと離れるだけで、どこに行っても豊かな緑の風景に出会えます。そこが宮城の魅力だと感じています。

優良建築物緑化認定制度 「SENDAI GREEN BRAND」を実施しています

仙台市では、杜の都にふさわしい都市緑化を進めるため、今年度より優良建築物緑化認定制度「SENDAI GREEN BRAND」を実施しています。これは、市内の建築物において緑化を進める個人、事業主の方からの申請に基づき、評価点数に応じて一ツ星から三ツ星の「SENDAI GREEN BRAND」認定を行うもので、認定ラベルの発行、表彰、広報のほか、融資制度の利用に係るメリットがあります。

認定によるメリット

- 1 認定ラベルの発行。建築物のPRなどに利用可能
- 2 仙台市緑化功労者表彰の対象になります
- 3 市ホームページなどで優良建築物緑化として広報
- 4 仙台市中小企業融資制度を利用できます

対象

市内の建築物敷地内に設置または計画されている緑化

基準

認定は「建築物等緑化の質に関する評価基準」による点数に応じて区分します。



事業の詳細、認定によるメリット、申請の流れ、申請書類のダウンロード等は仙台市ホームページをご覧ください。

SENDAI GREEN BRAND 検索



仙台市認定 緑の活動団体 「将監沼の自然」とふれあいを育む会

将監沼の自然環境を守り、地域コミュニティを活性化するため、将監地区の町内会などを中心に2004年4月に設立。以後、定期的に清掃・除草・下刈り・間伐などの保全活動を続けています。沼周辺は「将監風致公園」として1981年に開園しましたが、その後の手入れが行き届かず荒れ放題で、とても人が立ち入れる状態ではありませんでした。その後、同会により遊歩道や広場が整備され、現在では野鳥や樹木の観察など総合学習の場となっているほか、地域住民の散歩コースとしても親しまれ、春には「桜まつり」、秋は「将監ふれあいコンサート」が開催されるなど、世代を超えた人たちの憩いの場となっています。同会では「将監沼という宝を後世につないでいくため、地域の皆さんと一緒に活動を続けていきたい。若いお父さんお母さんにも、お子さんと一緒にぜひ参加してほしい」と呼び掛けています。



夏の間はすぐに雑草が生い茂り、遊歩道をはしめ公園内の除草が欠かせません



会員らにより整備・維持管理された遊歩道。途中には将監沼を望めるポイントもあり、市民に親しまれています

仙台市認定 緑の活動団体 水の森里の会

水の森公園の北西部、整備が手がけずだったエリアの下草刈りや倒木処理などの保全活動を行っています。「市民一人一人が自然と共生できる方法を考える」ことを目的の一つに、2012年に活動を始めて12年目。毎月1回、会員企業の社員を中心に、宮城学院女子大学の学生らも加わり活動を行っています。活動区域の一部は宮城学院女子大学附属認定こども園に隣接しており、4年ほど前までは竹が茂りうっそうとしていましたが、およそ2年をかけて整備。見違えるようになった森では野鳥の姿も多く見られるようになり、子どもたちにもとても喜ばれました。その後、取り組みに共感した子ども園の職員や同大の学生も参加するようになり、活動の輪が広がっています。同会では、「人が安心して立ち入れる環境づくりのため、今後もあり無理せず長く関わってほしい」と、この先のビジョンを描いています。



遊歩道も整備され、園内を散策できる環境が徐々に整ってきました



公園内の下草刈りと倒木処理の様子。大掛かりな作業が当然必要な状況で、会員による保全活動が続きそうです